2023 年度　中小企業海外展開現地支援プラットフォーム事業
市場レポート

中国の書籍（紙媒体）市場について

急速にオンライン化が進む中国では、書籍・新聞・雑誌も一気にデジタル化が進んでいる。スマホの読書アプリや、微信 WeChat のミニプログラムで読む「微信読書」なども人気だ。一方で蔦屋書店・TSUTAYA BOOKSTORE の人気など、文化発信の場としても大型書店は注目され、日本の翻訳書籍も実用書からライトノベルや漫画まで数多く並んでいる。現在の中国の書籍（紙媒体）市場のトレンドを考察し、今後の可能性を探る。

①　書店市場

「2022 年図書零售市場年度報告」※1 によると、2022 年度中国における書籍小売り市場全体の売上は 871 億元（前年比 11.77%減）。その販売ルートを見ると、実店舗での小売りは-37.22%と大幅に減少しており、書店など実店舗での書籍販売は厳しい状況だ。それに対して、抖音（TikTok）などの短尺動画のプラットフォームによる EC 販売は 42.86%増加しており、新たな書籍販売のルートとして発展している。

実店舗での書籍販売の厳しさから、いわゆる町の本屋のような小型書店の多くは閉店し、以前は上海に 3000 カ所以上あったと言われる「書報亭」（新聞や雑誌の販売スタンド）も 2018 年には姿を消している。

一方で大型書店はカフェやショップを併設し、新たな文化発信の場としても注目を集めている。大型書店の人気を牽引するのは、2020 年中国で 1 号店を開店した「**蔦屋書店 TSUTAYA BOOKSTORE**」だ。（2020 年 10 月に杭州店をオープン）その後、上海、天津、成都、深圳、西安、青島などで、中国で 11 店舗を展開している。（微信 WeChat の公式アカウント掲載店舗で確認）

さらに 1998 年に開業した上海の大型書店の先駆けである「**上海書城**」（福州路店）は 2021 年 12 月に改装のため閉店していたが、2023 年 10 月 28 日にフルリニューアルオープン。全 7 階の書店ビルの中に、複数のカフェや展示・イベントスペース、教育施設などが併設され、若者に人気のキャラクターグッズやレコード販売のエリアもあり、営業再開後は SNS でも話題のスポットとなっている。

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

上海書城 福州路店：福州路 465 号　営業時間 9：30～21：30（筆者撮影）

口コミサイト「大衆点評」の**人気（熱門榜）書店ランキング**（2023 年 12 月末）を見ると、上海では 1 位：朶雲書院（旗艦店・陸家嘴）、2 位：上海書城（福州路）、3 位：蔦屋書店（前灘太古里店）、4 位：蔦屋書店（上生新所店）、5 位：TSUTAYA BOOKSTORE 蔦屋（MOHO 店）、北京では 1 位：模範書局詩空間（西単）、２位：鐘書閣（融科店・中関村）、３位：PAGEONE（北京坊店・前門）と、デザイン性の高い大型書店が上位に並んでいる。書店は単に書籍を買いに行く場所ではなく、休日をゆっくり過ごしたり、写真を撮りたくなるようなおしゃれスポットとして人気になっていることがうかがえる。

また近年、一気に店舗数を増やしているのが、書店のチェーン展開している「**西西弗書店**」（SISYPHE BOOKS）だ。1993 年に重慶で誕生し、現在では中国全土で 29 省に 360 店舗以上の直営店を展開していて、上海や北京でもそれぞれ 20 店舗以上ある。大型ショッピングモールの中に出店し、カフェブランドである「矢量咖啡」（UP COFFEE）や文具や商品ブランドの「不二生活文創」（BOOART LIFE）なども一緒に展開しているのが特徴で、滞在型の消費を生み出している。

（筆者撮影）

西西弗（SISYPHE）公式サイト：https://www.sisyphe.com.cn/

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

② アートとしての書籍の人気

2023 年は大型のブックフェアも再開し、6 月には北京国際図書博覧会（https://www.bibf.net/）、8 月には「上海書展」（http://m.shbookfair.cn/）が開催され、活況を呈した。

さらに注目は、アートブック展が北京や上海などで若い層を中心に人気を集めていることだ。海外のアートブックの出品もあり、日本人アーティストのフォトブックなども販売されて人気を集めていた。またオリジナルのアートブックやグッズを作っている若手アーティストたちも中国全土から出展し、ファンとの交流が行われていた。本は読むだけでなく、持っていておしゃれで、空間を飾るというデザイン性も重視されていることがうかがわれる。会場では販売価格 100 元以上のものが多く、書籍の消費は量よりも質に重心が移り、より高額化する傾向がみられた。言語を超えたアートとして、日本をはじめとする海外の作品にも注目が多く集まっている。

「上海芸術書展　UNFOLD2023」

開催日：2023 年 6 月 9 日～6 月 11 日　会場：星美術館　（上海市徐匯区瑞寧路 111 号）

2017 年から始まったアートブックフェア。国内外からあった 508 件の応募のうち、入選した 230 件のブースが出展。指導：上海市書刊発行行業協会、主催：上海版語文化伝播有限公司、共催：上海聯合書業会展有限公司。

（上海芸術書展　UNFOLD2023 にて筆者撮影）

「第 8 回 abC 芸術書展・北京　The 8th abC Art Book Fair Beijing」

http://artbookinchina.com/zh/abc_fair/20238th/

開催日：2023 年 6 月 15 日～6 月 18 日

会場：北京勧業場文化芸術中心

会場では日本の Shashasha による The Sorrow of the Earth Photobooks などの展示も行われた。

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

③ 書店の市場性と顧客層

中国の書店をのぞいてみると、客の年齢層は幅広い。だが消費の核となっているのは、親子（子供向けの教育書籍）と若者（書籍だけでなく、グッズやカフェでも消費）のように見受けられる。

人気の大型書店では、必ずカフェを併設し、作家をテーマとしたドリンクメニューを展開したりもしている。さらに教育熱の高さを反映し、教育関連の書籍コーナーがどこも充実している。教材や参考書のほか、児童教育の絵本なども人気である。教育機関が書店の中にコーナーを設けたり、出店するケースも増えている。例えば、上海書城・福州路には、カフェが５店、英孚教育（Education First）、昴立青少年成長中心、歩歩高小天才（子供用ウォッチ）などが出店している。

ポプラ社（蒲蒲蘭絵本館）から出版されている日本の翻訳児童書はヒット作が多く、宮西達也の絵本『おまえ うまそうだな』は中国で舞台化されるほど人気が高い。また絵本「おしりたんてい」も児童書籍コーナーで大きく取り上げられているのを目にする。
蒲蒲蘭絵本館の公式サイト：http://www.poplar.com.cn/

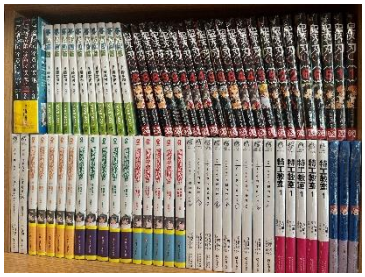
大型書店には、無料の休憩スペースや読書スペースが多く設けられていて、ゆっくり過ごせるようになっている。（筆者撮影）

並ぶ翻訳書籍のバリエーションは豊かで、中でも日本の書籍は源氏物語のような古典から、東野圭吾の人気に代表される小説、さらにライトノベル、漫画、絵本、実用書まで幅広いジャンルで毎年多くのタイトルが翻訳出版され、存在感を放っている。

漫画書籍を見てみると、日本の最新人気作である『SPY×FAMILY』（原作：遠藤達哉。中国語タイトル「間諜×過家家」、文化発展出版社より定価 25 元）など、日本の単行本と同じサイズ感で中国語版が並んでいる。人気なのはコレクション向けの大型豪華本や、単行本セットなどだ。『大奥』（原作：よしながふみ。中国語タイトル同じ、上海人民出版社より 6 冊セット、ケース・ポストカード 6 枚、色紙付き、割引価格 149 元）や、『海街diary』（原作：吉田秋生。中国語タイトル『海街日記』、四川美術出版社より全 9 巻セット、ケース、シール、ポストカード 2 枚など付き、割引価格 176 元）など、様々な人気タ

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

イトルが記念セットで発売されている。



（筆者撮影）

④ 今後の展開

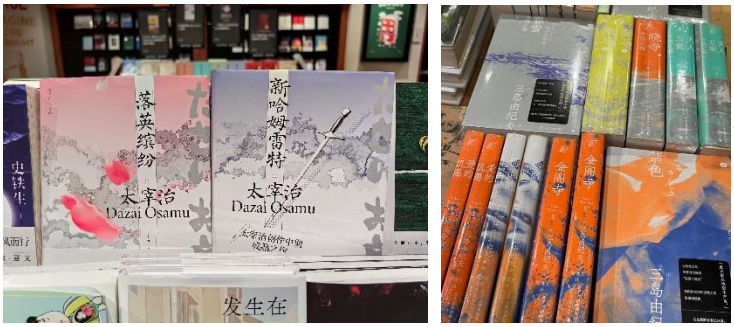
中国では日本以上に紙媒体離れのスピードは早い。だが、ブックフェアやアートブックフェアでの人気、また大型書店で並ぶ書籍を見ていると、美しいデザイン性のある装丁の書籍は、従来より高価であっても市場ニーズがある。日本の書籍の装丁の美しさには定評があり、日本的な装丁が求められる可能性もありそうだ。

蔦屋書店では、人気の日本のライトノベルや漫画などの書籍が、原書と翻訳本と並べて販売されているケースもあり、ファンの心をとらえている。手元に置いておきたくなるというコレクション欲をそそり、デジタル書籍との差別化を見事に図っている。

また和綴じや豆本などの特殊書籍や、和紙などの紙そのものへの関心の高さもうかがえる。近年の中国の印刷技術の進歩はめざましく、より高度なデザイン性のある書籍が売れ筋になる可能性がありそうだ。

箱入りの書籍や、側面までイメージカラーで統一した書籍など、読むだけでなく飾っておきたくなる装丁。（筆者撮影）

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載



*また中国で**パブリックドメイン**となった太宰治や三島由紀夫などの著作は、様々な出版社から新たな装丁で出版されている。（中国では著作権の保護期間は 50 年間）（筆者撮影）*

また人気書籍を核とした新たな展開もみられる。

翻訳出版の老舗である「**上海訳文出版社**」では、世界の名作をテーマに様々なグッズ商品も開発・販売している。上海訳文出版社の公式サイト：http://www.stph.com.cn/

上海のブックフェア 2023 の上海訳文出版社ブース。宮沢賢治グッズが出品されていた。公式の淘宝ショップなどで販売されている。（筆者撮影）

また同じく上海訳文出版社は、上海市内のカフェ数店とコラボして村上春樹をテーマとした「**来杯 100%村上**」を展開。（2023 年 7 月）村上春樹の人気小説のテーマに合わせたドリンクを販売するという企画で、店内では書籍の展示やスタンプリレーなども設置された。

（筆者撮影）

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

日本のキャラクター、アニメ、漫画などをテーマとしたポップアップストアが上海などで次々にオープンしてグッズ販売も好調であるが、書籍をテーマとした展開も可能性がありそうだ。

※1「2022 年図書零售市場年度報告」
北京開卷 2023 年 1 月 6 日：
https://mp.weixin.qq.com/s/r2_hTkf8Go7CUKMTG70fFA
2023 年度のデータはレポート作成時にまだ発表になっていない。

以上

プラットフォームコーディネーター・ミニレポート
「中国の書籍（紙媒体）市場について」
（2024 年 1 月）

〇作成：ジェトロ・上海事務所
〇執筆：プラットフォーム・コーディネーター　上海牛心文化伝播有限公司

【報告書の利用についての注意・免責事項】本調査レポートは、日本貿易振興機構（ジェトロ）上海事務所が上海牛心文化伝播有限公司に作成委託し、2023 年 12 月に入手した情報に基づき作成したものです。掲載した情報は作成委託先の判断によるものですが、一般的な情報・解釈がこのとおりであることを保証するものではありません。本調査レポートはあくまでも参考情報の提供を目的としており、提供した情報の正確性、完全性、目的適合性、最新性及びサービスの有用性の確認は、読者の責任と判断で行うものとし、ジェトロは一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロが係る損害の可能性を知らされていても同様とします。

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載